【様式４】

令和３年度　学校評価総括表（報告）

桜井市立織田小学校

学校教育目標		次年度への課題
：○自ら学ぶ力　自分で課題を見つけ，自ら学び，考える力を育成する。 ○豊かな心　生命や人権尊重の精神に基づいて，豊かな人間性を育成する。 ○たくましい力　実践への強い意思力と，たくましい体力を育成する。		
本年度の重点目標	総合評価	
①　国語科・算数科の基礎基本の徹底　主体的・協働的に学び合う授業の推進 ②　自尊感情や規範意識を高める取組確かな学力 ③　体力づくり ④　安心・安全な教育環境づくり ⑤　保・幼・小・中の連携	B	1　児童が「分かる喜びや楽しさ」「主体的に学ぶ，学習意欲の向上」を目指した授業改善 2　規範意識向上に向けて，児童・保護者への啓発（挨拶の励行，チャイム着席，廊下歩行等） 3　各教科・領域にて読書習慣を身に付ける取組の必要性

重点目標の番号	評価項目	具体的方策・評価指標等	成果と課題（評価の分析）	評価	課題の改善策等	学校関係者評価
②	学校のきまりの遵守・挨拶の励行	全教職員が一致してきまりを守らせるように指導し，きまりを守れたという児童を95%にする。登下校を含め，挨拶ができるように指導を重ねる。	・児童へのアンケートの結果，「学校生活のきまりを守っている」と答えたのは80．2%で、昨年度より12．8%低くなっている。それに対して保護者は，90%が「守れている」と答えており，児童と保護者の意識に差がある。「挨拶」に関しては，マスク着用の影響もあるが，児童の意識（83．8%）に対し保護者や地域からは，「挨拶の声が返ってこない」「元気がない」という意見が届いている。	B	・児童の規範意識の低下が見られるため,指導内容を全職員が共通理解のもと,児童に指導したい。また,保護者への啓発も今年度より積極的に行っていく。 ・挨拶の大切さ,心地良さを伝え,生徒指導部が中心となり,学校全体で「あいさつ運動」等の取組を進めたい。	○コロナ禍の状況で，校長，教頭はじめ教職員の方々は，熱心に織田小学校の経営方針にのっとり努力されているのがひしひしと伝わってきます。ただ，児童の挨拶に関しては，残念ながら校外では出来る児童と出来ない児童の差がはっきりとしている様に思います。 ○年寄りと両親の思いが一致していない様に思います。先生方が努力していただいている事は分かります。余りにも家庭が学校に頼り過ぎています。先生方が期待に応えようと頑張り過ぎているように考えます。国と教育委員会が現状の把握が足りていません。 ○子どもたちのあいさつは，本当に気持ち良くしてくれていて，中には頭を下げてあいさつする子もいますが，少数ですが話しながら歩いていく子も見うけます。でも，それはそれで朝から話題があり「話せる」という事，「話す」という事も大事なことなので良しとしてみています。気になることは，3列くらいに広がり歩いていて，車が大回りをした際に危険だなと思う時もあるので，せめて2列で歩くようにご指導頂くとよいかと思います。又，水たまりや砂の盛り上がった所にのぼっていって，遊びながら行く時もあります。子どもらしさがあっていいのですが，けがでもしなければ…と思い見ている日もチラホラあります。子どもたちの背が少しずつ大きくなった様に見え，心なしか嬉しく思っています。
②	人権学習の充実	児童や地域の実態に即した推進計画をたて，実践に努める。	・コロナ禍のため、制限のかかる中ではあったが、「なかま・部落問題認識」「国際理解」「バリアフリー」「平和」の4つのテーマを軸に全ての教育活動の中で多様な人権学習を推進した。また，人権に関する現地研修や講師を招いての職員研修を行い，教員の人権意識を高めることができた。	B	・人と人との出会いを大切なものだと捉え,状況に応じた方法でゲストティーチャーとの学習や職員研修を進めていく。教材を学ぶのではなく,教材で学ぶことのできるような人権学習を展開していく。	
①	基礎・基本の学力の定着	授業が楽しくわかりやすいと思える児童を90%以上にする。また，業前にチャレンジタイムを実施し，基礎学力の向上を図る。	・児童へのアンケートの結果、「授業は分かりやすい」と答えたのは89．8%であった。全国学力学習状況調査や県の学力診断の結果を分析し，苦手とする分野の克服に向けて取り組んだ。今年度より校内で算数科における児童実態調査を実施し，より正確な児童の実態把握に努めた。児童が分かる喜びを感じることができるように、基礎学力の向上のために、今後も教員の授業力向上が必要である。	B	・全国学力学習状況調査，県学力診断，校内児童実態調査などの結果から実態を分析し，学力向上のための具体的な方策を考え，実行する。チャレンジタイムの内容を振り返り，内容の見直しを行う。	
①	授業方法の工夫	校内研究授業の取組が，職員全体のものになり，指導改善が図れたか。	・講師を招いての授業研究会やオンラインによる講師からの指導助言を受け，社会科の進め方や「ねり合い」について研修を積むことができた。また、ICT機器を積極的に取り入れることができるように校内研修を実施した。様々な学習活動でICT機器を活用した授業を展開することができた。	A	・進めてきた学習形態が基礎基本の学力向上や社会科への興味関心の向上につながっているのかを分析し，その効果について振り返りたい。 ・ICT機器を活用した様々な授業を展開していけるように，ICT支援員等を活用しながら，職員研修を充実させる。	
①	読書活動の推進	学校生活全体を通して，読書活動の推進を図る。	・児童アンケートでは，「よく本を読んでいる」が71．3%であった。ボランティアによる図書室の環境整備が進んでおり、昨年度より読書する環境は改善した。今後も各教科領域等で読書習慣が身につくような取組が必要である。	B	・本の冊数を増やし，図書室の環境改善を行う。児童が少しでも本に親しむことができるように各教科領域で読書の良さを伝えたい。また，「お話の会」の方々と連携し，読み聞かせの機会をもつようにする。	
③	体力づくり	運動能力テストの平均値が，昨年度と比較して向上したか，体力向上プランニングシートの内容が具現化できたか。	・コロナ禍のため、制限のある中で体育学習を展開した。体力テストの結果では、投能力に課題が見られた。次年度は改善に向けて取り組みたい。運動能力の二極化を感じる。体育学習の中で様々な運動と出会わせたい。また、外遊びの内容に偏りが見られるように思う。	B	・体力向上プランニングシートについて，職員間で共通理解をし，体育の授業を充実させ，児童の体力向上に努める。 ・様々な運動につながるような外遊びの提案を児童にしていく。	
④	家庭や地域との連携	学校・地域パートナーシップ事業を計画的・発展的に推進したか。	・コーディネーターが各ボランティアの中心となり，パートナーシップの運営を行った。今年度も「花ボランティア」「図書ボランティア」を募集し，昨年度より多くのボランティアが参加し，自主的・意欲的な活動を進めることができた。	A	・コーディーネーターとの連携を強め，各ボランティアとの連絡・調整をスムーズに行う。各ボランティアが気持ちよく、無理なく，意欲的に活動できるような環境づくりを進める。	
④	学校安全の評価	学校安全会議等を活用して，児童の登下校等の様子に改善を図ることができたか。	・児童の登下校等の安全確保をテーマに学校安全会議にて改善点を話し合った。出された改善点は、県・市による通学路安全点検で報告し、改善に向けて要請した。また，多数の団体と連携した交通安全教室を開催し，児童の意識を高めた。	A	・登下校指導等で児童の安全確保に向けた改善点を見つける。また，過去に出された改善点の経過を校内で正確に把握する。	
④	学校から保護者・地域への情報の発信	学校便りやホームページ等を通して，学校の様子や児童の実態を情報公開できたか。	・学校だよりは毎月発行し，保護者だけでなく，民生児童委員，学校評議員，各地区長の方々にも配布した。コロナ禍のため地域の方々を学校に招くことが困難であるため，学校教育に興味関心を持ってもらえるようにエ夫した。ホームページはもう少し充実させる必要がある。	B	・学級だよりや学校だよりの更なる充実，HPの更新頻度をあげる等の努力をして，保護者・地域へ情報を発信する。	
⑤	幼・保・小・中の連携	幼保連絡会・小中連絡会等の交流や共通理解が本校の教育に生かせたか。	・特別支援コーディネーター，教務が中心となり，各園所との連携を強めることができた。織田纏向幼稚園へは全ての教員が参観のために訪問した。また，大三輪中学校への参観も実現した。それぞれの参観後には，入学予定児や卒業生の様子を校園所職員から情報提供していただく機会をもつことができた。	A	・幼保小中間の情報交換を積極的に行い，各校園所の連携をより強めていく。今後も児童の継続的な指導や見守りができるようしていく。また，今年度開催できなかった三小合同の大三輪中学校入学説明会を実現させる。	